

平成19年7月の解説（府県天気予報）

【7月の天候状況】

月の前半は梅雨前線や低気圧の影響でほぼ全国的に雨や曇りの日が多くなりました。月半ばに、台風第4号が南西諸島から日本の南岸を進んだため、全国各地で大雨が降りました。その後は北日本や東日本では月末まで梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、西日本では下旬半ばから太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。南西諸島では月を通して太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。

月を通しての日照時間は北日本の日本海側と南西諸島では平年より多く、その他の地方では平年より少なくなりました。降水量は南西諸島、西日本、東日本太平洋側で平年を上回り、北日本と東日本日本海側で平年を下回りました。気温は南西諸島を除いてほぼ全国的に平年より低く、南西諸島では平年より高くなりました。

【7月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が81%で例年（注）より2ポイント高く、明後日予報が78%で例年より3ポイント高くなりました。地方毎の適中率では、明日予報は近畿地方で例年より6ポイント低く、九州南部地方で7ポイント、沖縄地方で9ポイントそれぞれ例年より高くなりました。明後日予報は近畿地方で例年より5ポイント低く、東北、関東甲信、東海、九州北部、九州南部、沖縄地方で例年より5ポイントから14ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は例年に比べて四国地方で0.2℃大きく、東北、北陸地方で0.2℃小さく、全国平均は0.1℃小さい1.8℃でした。また、最低気温の予報誤差は例年に比べて関東甲信、九州南部地方で0.2℃大きく、東北、北陸、近畿地方で0.2℃小さく、全国平均は例年と同じ1.2℃でした。（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の天気予報から】

一般に梅雨前線は直線ではなく南北に波うって東西に伸びています。北に盛り上がった部分では前線活動が活発で雨雲が発達し易く、南に下がった部分では活動が比較的不活発になります。また台風が北上して暖かく湿った空気が梅雨前線に流れ込むと前線活動が活発になります。

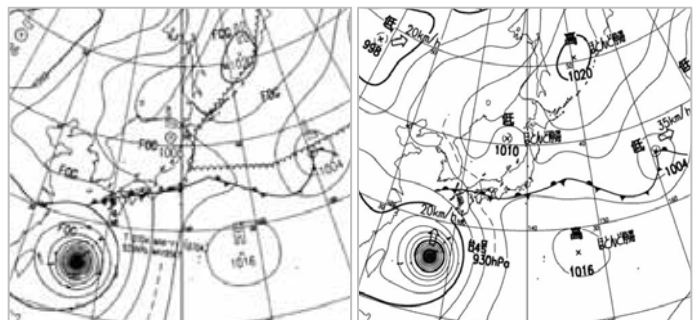


図1 7月13日09時の実況地上天気図（右）と24時間前の実況から予想した7月13日09時の予想地上天気図（左）

7月13日、梅雨前線が関東の南岸付近に停滞し、台風第4号が沖縄付近を北に進ん

でいました。12 日夕方の天気予報では東京地方の 13 日（明日）の天気を「曇り夕方から雨」と発表しました。

13 日 9 時の気圧配置を予想した天気図（図 1 の左）を見ると、関東の南岸に梅雨前線が停滞し、千島近海に高気圧があります。このような気圧配置では関東地方に北東から冷たい空気が流れ込むため、曇りがちの天気となって一部で弱い雨が降る可能性が高いことを示しています。一方、台風第 4 号の東側では暖かく湿った南風が梅雨前線に向かって吹いています。台風が北上するにつれてこの南風が次第に強まるため、東日本でも梅雨前線の活動が次第に活発になって、東京地方では夕方から本格的な雨になると予想しました。

実際には 13 日の東京地方の天気は終日曇りでした。13 日 9 時の実況地上天気図（図 1 の右）を見ると梅雨前線は関東地方から東海地方付近で予想よりわずかに南に位置しています。梅雨前線に伴う雨雲は 13 日の昼ごろに千葉県南部や神奈川県まで北上した後、いったん南下し夜になって再び千葉県南部までは北上したものの、東京地方で本格的な雨になったのは翌 14 日になってからでした（図 2）。

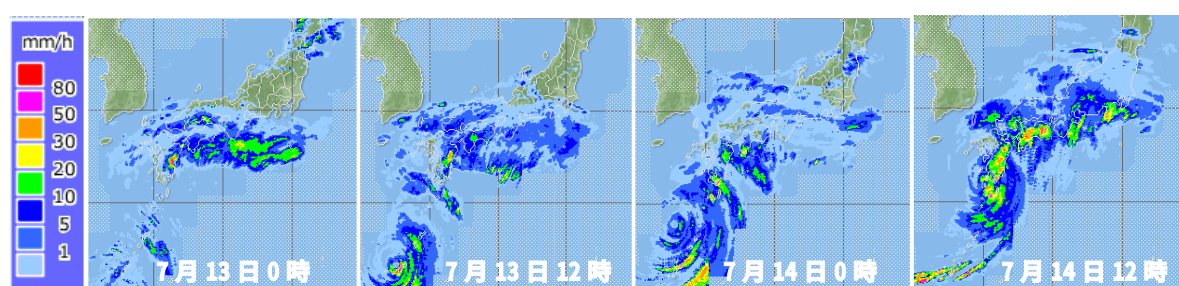


図 2 7 月 13 日から 14 日にかけての解析雨量（前 1 時間）

この事例では台風や梅雨前線の位置などは概ね予想通りでしたが、梅雨前線がわずかに予想より南に位置し、前線活動がやや不活発となってしまいました。大きな規模の気圧配置や大気の流れを概ね予想できた場合でも、梅雨前線による雨の降る範囲と時間帯を常に正確に予想することは難しいと言えます。

【9月の天気予報の利用にあたって】

9 月はしばしば勢力の強い台風が上陸し、8 月と並んで台風による災害が多い月です。2004 年 9 月 7 日には台風第 18 号が長崎市付近に上陸し九州北部を横断した後、日本海から北海道西海上を北上しました。このため、沖縄地方、九州地方、中国地方及び北海道地方で、最大風速 25m/s を超える暴風が吹き、これまでの記録を更新する最大瞬間風速を観測したところもありました。この台風により、各地で建物の損壊や倒木被害が発生し、また、飛散物の落下や転倒により多くの人が負傷しました。

台風が接近する予報が発表されている場合には、台風情報を有効に利用するとともに、強い風が吹き出す前に、風に飛ばされ易いものを固定したり、建物内に収納したりするなど事前の対策をし、風が強くなりだしたら不必要な外出は控えましょう。